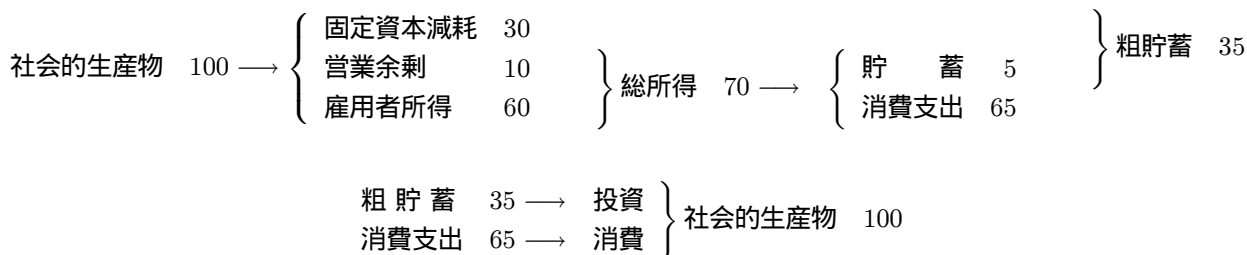


第1章第1節の補足，その他の注意

1 所得支出の流れ

所得支出の流れを示す7ページの図式は，もう少し細かく分解するとつぎのようになる．このように考える方が，これに続く式(1)から(4)まで，との対応が分かりやすいであろう．



固定資本すなわち耐用資本財は，はっきりと目に見える形で消費するわけではない．建物，機械などは，生産に用いたからといって外形が顕著に変わることはないであろう．したがって「固定資本減耗」の大きさは，固定資本の外形から直截には測ることができない．固定資本減耗は，固定資本の価値の減少である．なぜ価値が減少するかというと，固定資本の寿命すなわち耐用年数が有限だからである．そのため固定資本の耐用年数は，生産に用いられることによって，あるいは単に時間の経過によって，次第に短くなって行く．固定資本の価値は，耐用年数を通じてそれが生み出す営業余剰の大きさによって定まるから，残る耐用年数が短くなると，その価値は次第に小さくなって行くのである．

固定資本の耐用年数が有限であることには，物理的な原因と経済的な原因とがある．前者が定める耐用年数を物理的耐用年数，後者が定める耐用年数を経済的耐用年数という．物理的耐用年数は，使用または経年の損耗のために使用が不可能になるまでの期間である．経済的耐用年数は，技術進歩または消費者の好みの変化のために陳腐化が起こるまでの期間である．陳腐化 *obsolescence* とは，機械などが，使用に耐えはするが旧式になって，生産に用いても採算がとれなくなることである．新しい能率のよい機械が発明されると，古い機械を使う生産は費用が割高になり，採算がとれなくなる．ワード・プロセッサが広く用いられる現在では，昔使われていた邦文タイプライターはまったく役に立たなくなった．消費の好みの変化の影響もある．やがて喫煙の習慣なくなると，たばこの生産に使われていた機械は無用になるであろう．

固定資本減耗は，このように，耐用年数に基づく価値評価をとおしてその大きさが定まる．そのため，年々資本形成のために行われる支出を，はじめから減耗を補填する部分と純投資の部分とに分けることは出来ない．上に示した図式で，固定資本減耗と貯蓄とを合わせて，粗貯蓄として投資支出に対応させるのはそのためである．

2 生産の概念について

第1章で，生産の概念をヒックスにしたがって

交換を通じて，他の経済単位の欲求を充足する行為

と定義した．それは，生産の社会的定義というべきものである．ここで欲求とは，たとえば空腹をいやしたい，余暇を楽しみたいなど，生活のための最終の欲求のことである．最終の欲求とは何かを深く考えれば，

際限がないであろう。経済学では、財サービスを使用する段階に留めなければならない。各経済主体が、それぞれの最終欲求を充足するために財サービスを使用する行為を消費という。社会的な生産とは、他の経済単位の消費を実現するための行為である。

生産技術が発達すると、直接に消費される財サービスが生産されるだけでなく、消費される財サービスを生産するための財が生産されるようになる。機械、道具、機械の部品等々である。これらの中には、交換を通じて他の経済単位が使用するものもあれば、交換を経ずに同じ経済単位内で使用されるものもある。工場で設備が造られ、それがそのままその工場内で使用される場合があるであろう。また農家では、一つの経済単位内で、翌年の生産に使われる穀物の種子が準備される。このように交換を経ずに財が蓄積されることも、ヒックスの意味で生産である。なぜなら、これらの財は、他の経済単位の消費のための準備であり、消費されるまでのあいだに、その財自体がさまざまに形を変えはするが、交換を経るからである。

交換を経ないで同一経済単位内に蓄積されて行く財は、現代の国民経済計算でも、もちろん生産物の中に数えられている。このような財については、国民経済計算上、その価値をどのように評価するかという問題がおこる。交換される財については市場価格が定まるが、交換されない財については市場価格が定まらないからである。解決の方法としては(1)交換される類似の財の市場価格を利用する(2)要素費用を用いることなどが考えられる。市場価格、要素費用については、補論2を参照せよ。

3 補論3に関する注意

補論3で説明する名目国民総生産と実質国民総生産について、数式展開では、名目総生産をパーシェ物価指数で補正して得た実質総生産とラスパイレス物価指数で補正して得た実質総生産を、ともに X^1 で示している。しかし、両者が一致するというのではない。パーシェ物価指数で補正して得た実質総生産すなわち不変価格の総生産の大きさは、一般には、ラスパイレス物価指数で補正して得た実質総生産の大きさと異なる。誤解を避けるためには、たとえば前者を X_P^1 、後者を X_L^1 のように記すべきであろう。つまり

$$X_P^1 = \frac{Y^1}{P_P}, \quad X_L^1 = \frac{Y^1}{P_L}$$

である。当然のことであるが、一般には X_P^1 の値と X_L^1 の値とは一致しない。